
三分間の勇者

河童

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

三分間の勇者

【コード】

N5966J

【作者名】

河童

【あらすじ】

ドラゴンに勇敢にも戦おうとするだけの物語

(前書き)

この物語はファンタジーですが戦闘シーンは一切ございません。
暇な人が暇な時に書いた落書きです。

雨が降る中、俺はふと空を見上げた。

傘もささないでずぶぬれの俺は雨が心地よく思えた。顔に触れる雨が涙のように頬をたどり落ちていく。

「ハハ、受験に落ちた俺にはちょうどいいな」

空に話しかけると「うるさい黙れ」というように雷が光った。俺は天にも嫌われているようだ。

空は黒雲が渦巻いて今にもドラゴンが現れそうだ。

もし現れたら俺を不合格にした学校を燃やしてください。

そう願っても空は変わらずただ雨を降らすばかり。

今日は嫌な日だ。朝から嫌な予感はしていたんだ。いつも観ているテレビの占いは昨夜落ちた雷の影響で見れなかったし、近所の神社で買った合格祈願のお守りは隣の家で飼っている犬のおもちやになつてたし、自転車の上にはカラスが数え切れないほど乗っていた。別にそんなことが悲しいわけじゃない。ここが落ちても滑り止めとして受けた高校があるからそんなに悩むほどのことでもないのだ。ただ、俺が悲しいのは、その滑り止めとして受けた高校がたった今ドラゴンの奇襲に遭いつぶれてしまったことだ。

「ドラゴンなんかどっから出てきたんだよ！」

空に叫んだが答えは帰ってこない。それどころか雨がいつそう激しくなっただけだった。近くにいた人たちが皆無言で俺を避けているのが分かる。そりゃあいきなり大声を出すような人には近づきたくないのは当然の反応だが、当然と分かっているても木津つくものは傷つくのだ。

ハハハ、泣いてなんかないよ。これは雨さ。

心の中で寂しく言い訳をする俺の姿はきつと不審者そのものなのだろう。だって周りの人が避けるどころか携帯電話を取り出してるもん。

とりあえずここにいると青い制服を着た人たちが手錠を握り締め
てやってきそうなので立ち去ることにする。

「ここまでくれば大丈夫だろう」

何の根拠もなく言った言葉が世間だと死亡フラグだったりする。
気をつけなければ……。もう言ってしまったけどね。

どうせ死ぬならあの憎きドラゴンを退治してから死んでやる。

そう思い俺はドラゴンを倒す勇者になることを決意した。ずいぶ
んと個人的な理由だが、始まりなんてそんなんでいいだろ？

探し始めて三分後

俺はドラゴンを探して町中を走り回っていると、電気店に飾って
あるテレビが目に入った。今の時間はどのチャンネルでもニュース
をやっている。

そろそろテレビも変え時かなと思っていると、ちょうどよくあの
ドラゴンについてキャスターが話し始めた。

「今日来日したドラゴンですが、学校を一校破壊した後魔界へ帰っ
ていきました。学校には人はいなく、奇跡的に負傷者0だったよう
です」

「何のために来たんでしょうかね？」

「観光じゃないですか？」

「アハハハ」

テレビからアナウンサーの笑い声が聞こえてくる。

どうやら俺が退治するはずだったドラゴンは、俺の人生の邪魔を
しただけで他は何もせず帰ってしまったようだ。本当に何のため
に来たんだろうね？

そして俺は決意する。

「よし、帰るか」

たった三分で勇者の目的は達成不可能になってしまった。
なので俺は帰る。家に帰る。当分ひきこもろっかな？でも親に迷惑掛け操舵しやめておこう。とりあえず帰ったら寝よう。そして枕を涙で濡らそう。

さあ、明日から就職活動だ。

こうして職を失った勇者は社会に出て行くのであった。

(後書き)

読んでいただきありがとうございます。

これからも頑張っていきます。これからも読んでいただけると幸いです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5966j/>

三分間の勇者

2010年10月15日21時31分発行